学校番号	T0207

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	生基 007-902 「高校生物基礎　visual」 実教出版						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・学習を通じて科学的な自然観や倫理観を養い、科学的に探究する能力と態度を育てるために、毎時間の授業で,常に目的意識を持って受けることが望ましい。
・授業の中だけでなく、日常生活の中の様々な場面で、知識を活用する力や新しい見方を得ることにより、豊かな考え方、感じ方を身に付ける。

2　学習の到達目標

・生物や生物現象を科学的に探究するために必要な観察,実験などに関わる知識や技能を身に付けることをめざす。
・科学的なものの見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察,実験などを行い，科学的に探究する力を養う。
・生物や生物現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、生物に対する興味・関心を高める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象についての観察，実験などを行うことを通して，生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に，探究の過程を通して，問題を見いだすための観察，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，調査，データの分析・解釈，推論などの探究の方法が習得できている。また，レポートを作成したり発表したりして，科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり，それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など，科学的に探究しようとする態度が養われている。その際，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	生物の特徴	1.生物の多様性と共通性 2.生物とエネルギー	a:生物の共通性と多様性について,すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 生命活動に必要なエネルギーを,呼吸や光合成から得ていることを理解している。 b:細胞が生物の基本構造であることを,生物学的な視点から考察することができる。 呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を,関連づけて考察し,それを表現できる。 c:生物の共通性を,実験や観察を通して見いだし,意欲的に理解しようとする。 資料に基づいて,生命活動にエネルギーが必要であること,また,呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。	考査 授業プリント	考査 授業プリント	授業プリント 課題プリント等
	遺伝子とその働き	1.遺伝情報とDNA 2.遺伝情報とタンパク質の合成	a:ゲノム,遺伝子,染色体,DNAの関係を理解している。 遺伝子の発現について理解し,細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解している。 b: DNA の複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。 DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し,表現できる。 c: 細胞分裂の際に,DNA の塩基配列が正確に複製されるしくみを見いだし,理解しようとする。 DNA の塩基配列の情報に基づいて,タンパク質が合成されることを意欲的に理解しようとする。	考査 授業プリント	考査 授 業 プリント	授業プリント 課題プリント等

後期	生物の多様性と生態系	1.生態系とその成り立ち 2.植生とバイオーム 3.生態系と生物の多様性 4.生態系のバランスと保全	a: 陸上には，森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ，植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくこと，また，気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。 生態系のバランスや，生態系の保全の重要性について理解している。 b: 植生の遷移が，光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。 生態系の保全の重要性について，生物の多様性の視点から考察することができる。 c: 地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを意欲的に理解しようとする。 生態系のバランスや，生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。	考査 授業プリント	考査 授業プリント	授業プリント 課題プリント等
	ヒトのからだの調整	1.体内環境 2.体内環境の維持のしくみ 3.免疫	a: 体内環境が一定の範囲に保たれることと，それが神経やホルモンの働きによるしくみであることを理解している。 免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。 b:腎臓の働きについて体系的に理解し，ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。 血糖濃度調節のしくみを，ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。 ヒトの免疫疾患について，身近な例をもとに説明することができる。 c: 観察，実験に基づいて，体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだし，積極的に理解しようとする。	考査 授業プリント	考査 授業プリント	授業プリント 課題プリント等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度